

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)		商店街（代表者）	・2～3か月後はゴールデンウィークがあり、旅行や観光に出掛ける地域住民が減少する一方で、地元中心市街地での消費が増加する傾向がある。また、年々、国内外からの観光客が微増しているため、飲食、交通、宿泊、土産などの売上が伸びることを期待している。
		商店街（代表者）	・現在はオフシーズンであり、これからオンシーズンに向かうため、今後についてはやや良くなる。
		商店街（代表者）	・平昌オリンピックの影響もなくなるため、今後の消費回復を期待している。外国人観光客については様々な国、地域からの来訪が増えており、今後も順調に推移する。
		商店街（代表者）	・春になり、暖かい日が続くようになれば、景気はやや良くなる。また、野菜などの価格が落ち着くことも期待している。
		一般小売店〔土産〕 （経営者）	・2月の売上は前年及び前々年を30%上回った。また、外国人観光客による売上が全体の60%を超えようとしている。貝柱や高級昆布を購入する外国人観光客が増加していること、国内客の客単価が3,800円と上昇していることから、今後の景気はやや良くなる。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・このところ、当地では観光関連が活気を呈しており、本来であればオフシーズンの12～1月も多くの観光客が訪れている。そのため、事業者の景気も全体的に上向いている。これから春先に向けて、そうした動きが一層加速し、事業者の懐が一層潤うことになれば、当店の売上も増加することになる。
		百貨店（売場主任）	・過去6か月、前年を上回る傾向で推移しており、若干の回復傾向がみられることから、今後についてはやや良くなる。
		百貨店（担当者）	・近年まれにみる大雪など、悪天候の影響で来客数が減少していることが売上にも影響している。今後については季節が変わるとともに天候も回復することで来客数の反動増が期待できる。
		百貨店（役員）	・現在の景気が余りにも悪く、これ以上悪くなることは考えづらいため、今後についてはやや良くなると期待している。
		百貨店（営業販促担当）	・2月は特殊要因で落ち込んだ面が強く、客単価自体は落ちていないことから、今後については客足が戻るとともに、前年の9～12月頃の水準に回復することになる。
		コンビニ（店長）	・今後については引っ越しなどで人の動きが活発になるため、景気が上向くチャンスにつながることを期待できる。
		衣料品専門店（店長）	・今年に入り、スーツの流行色が黒から紺系に変わったことで買換えの客が増えている。販売量も前年から5%アップと堅調に推移していることから、今後についてはやや良くなる。
		家電量販店（店員）	・2月の売上が落ち込んだ分、春需要が拡大することを期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・1～2月の大雪の影響による落ち込みからの反動増が期待できるため、今後については景気が上向くことになる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・大型スポーツイベント目的の利用客に加えて、東南アジアを始めとした外国人観光客が堅調に推移していることから、今後についてはやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・雪解けが進み、芝桜やチューリップなどの花観光が盛んな季節となる。ゴールデンウィークも4連休となるため、観光客の増加が期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・1次産業及び建設関係の好調さが消費を促進しており、今後もその傾向が続くことで旅行需要も上向くことを期待している。
	通信会社（企画担当）	・首都圏と比較して、格安通信サービスへの引き合いが少なく、見込みよりも好調に推移していることから、今後も自社の通信サービスの販売量の増加が期待できる。	
	美容室（経営者）	・ここ半年は前年並みの売上で推移しており、これから3～4月に掛けて催事の多い時期となるため、景気も多少は良くなる。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・春の到来とともに、天候が回復してくることが見込まれるため、今後についてはやや良くなる。	
	商店街（代表者）	・春になり、天候が回復することで、客足が戻るようになる。	

商店街（代表者）	・平昌オリンピックも終わったため、今後の景気については米国の動向次第の面がある。しばらく様子見をしなければ、どうなるかは分からない。
百貨店（販売促進担当）	・3月以降については観光客の伸びが一段落し、外国人観光客の需要に支えられてきた地域マーケットも通常期の動向に戻るため、前年と同じような売上になることが見込まれる。
スーパー（店長）	・雪解けとともに購買需要が活発になることが見込まれるものの、原材料の値上げが商材価格に反映されることの影響も生じるため、全体的には変わらずに推移する。
スーパー（店長）	・大きな変動要因がないため、今後も景気は変わらない。
スーパー（店長）	・ここ数年、ディスカウントストアの攻勢により、客が価格の安い商材に流れる傾向にある。今後もチラシ価格などで客の動向が左右される傾向が続くとみられ、競合店との争いが激化することになる。
スーパー（役員）	・灯油やガソリンの大幅な値上げが食費の節約につながっているのか、よく分からない面もあるが、人口減、高齢化などの状況に変化がみられないなど、景気の上向き材料が見当たらないため、今後も変わらない。
コンビニ（エリア担当）	・節分の恵方巻きがよく売れた一方で、たばこやアルコールなど好品の売上が低迷していることから、客の節約志向がうかがえる。日々の消費に対する客のマインドは上向きとはなっていないため、今後も景気は変わらない。
家電量販店（経営者）	・季節要因などによる売上の増加は見込めるが、景気が上向きような要素は余りない。
乗用車販売店（経営者）	・先行指数である新車受注については、これまで高水準で推移していた新型車効果の反動で、今後しばらくは前年実績を下回る状況が続くことになる。
乗用車販売店（経営者）	・地域経済に明るさがみえないことに加えて、新商材の計画もないことから、今後の大きな変化は期待できない。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・売上を上げるためには積極的な啓もう活動が求められる状況である。そのため、今後も景気は変わらない。
高級レストラン（経営者）	・景気が良くなる要素がないため、今後についても期待できない。
高級レストラン（スタッフ）	・平昌オリンピックで北海道勢が大活躍したことで財布のひもが緩むことを期待しているが、これから年度末、年度始めを迎えること、プロ野球が始まることなどから、地元客の利用は余り期待できない。飲食店においては外国人観光客頼みの状況が続く。
旅行代理店（従業員）	・先行きの営業数値がやや良いが、数か月後にはその反動で新規案件の問合せが鈍化することになる。
旅行代理店（従業員）	・売上がほぼ前年並みで推移しており、特に良くなっていることも、悪くなっていることもないため、今後も変わらない。
タクシー運転手	・乗務員不足の状況は変わらないため、現在の状況がこのまま続く。
タクシー運転手	・雪が解け、閑散期を迎えるため、例年並みで推移することになる。
通信会社（社員）	・業界的に、今後については変化がないまま推移する。
観光名所（職員）	・伸びがやや鈍化しているものの、外国人観光客を中心に来客数の増加している状況が続いているため、今後も変わらないまま推移する。
美容室（経営者）	・今後も客の来店周期に大きな変動がみられない雰囲気があるため、これ以上良くもならないが、悪くもならない状況が続く。
住宅販売会社（経営者）	・今後については長期金利の動向が分譲マンションの需要に大きな影響を及ぼすことになる。今のところ、長期金利の動向は判然としないが、米国の長期金利の上昇に伴い、日本の長期金利も上昇することになれば、分譲マンション市場は冷え込むことになる。
スーパー（企画担当）	・燃料費を中心に物価がじわりと上昇している一方で、実質的な給与所得が増加していないことから、今後、客の財布のひもが固くなることはあっても、緩むことはなさそうである。
スーパー（役員）	・野菜の価格上昇分を節約するため、買物全体を節約する傾向がみられ、今後も野菜の高値が続くことが見込まれることから、景気はやや悪くなる。
コンビニ（エリア担当）	・前年は映画の撮影などの特殊要因があったが、今年はそうした特殊要因がないため、景気はやや悪くなる。
コンビニ（エリア担当）	・3月は人口の流出が激しくなるため、今後の景気が良くなることは考えられない。

	衣料品専門店（店長）	・ここ数か月、来客数も、客単価も、売上も伸びていないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	乗用車販売店（従業員）	・今後については4月こそ新入社員による車の購入などで多少の動きがみられるが、3月で売り切ってしまう傾向があるため、4～5月の売上はやや落ち込むことになる。
	その他専門店〔造花〕（店長）	・原材料価格の上昇に伴い、全体的に商材の値上げが進む影響で客の購入意欲が低下することになる。
	高級レストラン（スタッフ）	・地域の人口減に加えて、高齢化が進んでおり、先行き不安から消費を控える傾向がみられる。また、他地域からの流入人口が増加するような傾向もみられないため、今後の景気はやや悪くなる。
	タクシー運転手	・どの業界も人手不足であり、資材高騰の影響もあるため、一部の業種を除けば景気が好転することは望めない。
	タクシー運転手	・この先の利用に対する問合せや予約の件数が、前年を下回って推移していることから、今後の景気はやや悪くなる。
	タクシー運転手	・春から夏に掛けて、やや動きが出てくることを期待しているが、現在の状況に変化がみられないため、全体的な景気回復までは期待できない。客の動き、単価の動きなども期待感に欠けている。
	タクシー運転手	・平昌オリンピックが終了し、客の動きも落ち着きを見せ始めていることから、今後の景気はやや悪くなる。
	観光名所（従業員）	・外国人観光客、特に中華圏や東南アジア圏の客に人気の冬季観光が落ち着くことになるため、今後については利用客の減少が見込まれる。
	美容室（経営者）	・消費税の再増税に向けた動きが出てくることになれば、景気はやや悪くなる。
	住宅販売会社（経営者）	・当地では雪がたくさん残っており、自治体の予算も少ないことから、除排雪が追い付いておらず、客足が動くにはほど遠い状況となっている。このため、この先もしばらくは影響が残ることになる。
	x 観光型ホテル（役員）	・エネルギー価格の上昇や円高の進行により、国内客、国外客共に旅行需要が冷え込む懸念がある。また、食品を中心に物価上昇が続いていることで、収益が悪化することも懸念される。
企業 動向 関連 (北海道)	-	-
	建設業（経営者）	・公共工事のゼロ国債工事などの発注、契約が始まり、受注が徐々に積み上がることになる。実際の工事着手は4月中旬以降になるが、準備作業に取り掛かることでマインド面も好転することになる。建築工事についてはまずまずの状況で推移する。
	建設業（従業員）	・建設業界では民間工事の雪解け着工や公共工事の発注が始まるため、景気が良くなる。
	建設業（役員）	・補正予算や次年度分の公共工事が農業土木関連を中心に年明けから出てきており、新規受注につながっている。春先着工の民間建築工事も加わり、来年度上期はフル稼働状態が見込まれる。
	輸送業（支店長）	・春先の本州向け輸送案件の受注が決まってきていることから、今後については忙しくなる。ただし、オーダーの集中具合によっては割増運賃を払って下請業者に発注せざるを得ないことなども懸念されるため、収益面ではまだ不安がある。
	食料品製造業（従業員）	・受注量が増えるような案件が見当たらず、現在の落ち込んだ状況がしばらく続く。
	家具製造業（経営者）	・若年労働者の確保がますます難しくなっている。特に地方都市の中小企業において、その影響が大きくなりつつある。
	通信業（営業担当）	・来期の計画策定に際して、現在と同様に景況感のやや良い状況が今後も続くかと判断している。
	金融業（従業員）	・生鮮食品やエネルギー関連の価格上昇が個人消費の重荷となることが懸念される。また、最近の円高の進行により、これまで道内景気をけん引してきた外国人観光客の動向に影響を与えることも懸念される。一方、民間設備投資は建設投資を中心に堅調に推移している。これらのことから、道内景気は3か月前と変わらない水準で推移する。
	司法書士	・現在の状況を脱却し、上向きになることを期待しているが、今後の情勢次第の面がある。
	司法書士	・3月に入れば気温が上昇する見込みであるため、灯油などの暖房費の負担はやや少なくなるが、日用品や食費などの支出は依然として抑えざるを得ない状況であるため、こうした状況が改善されない限り、景気が良くなることはない。
	コピーサービス業（従業員）	・働き方改革に取り組む会社が多く、労働時間が限られてきていることで、今後の業績が横ばいで推移する会社が多いとみられる。

	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・災害復旧工事関連が一段落した一方で、北海道新幹線の延伸工事など、民間の建築意欲が旺盛であることから、今後についてはプラスマイナスゼロで横ばいに推移することになる。	
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・夏頃までは現在の売上の良い状態が続き、秋口から前年並みの売上に戻るとみられる。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・新年度に入り、スタート時点では好調に推移するとみられるが、ゴールデンウィークの影響も考慮すると、全体的には現状維持の状態が続く。	
	食料品製造業（従業員）	・原材料のキャベツとタマネギの価格高騰が続いており、しばらく高止まりすることが見込まれるため、今後についてはやや悪くなる。	
	x	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・年度始まりとなり、発注が停滞することが見込まれる。
雇用 関連	-	-	
(北海道)	求人情報誌製作会社（編集者）	・特に若い労働者の応募が極めて少なく、地元を支える1次産業及び2次産業の生産性が今後も維持できるのが心配なほどである。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	・人手不足のため、新規出店を計画する企業が少なくなっている。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・一昨年の台風被害からの復興事業が、そろそろ頭打ちになってくることが見込まれるため、今後の雇用環境は横ばいで推移する。	
	職業安定所（職員）	・月間有効求職者数が前年を下回り、月間有効求人数が前年を上回る傾向が今後も続く。	
	職業安定所（職員）	・介護施設の新設に伴う求人申込みが散見され、企業説明会における在職者参加がこれまで以上に多くみられるなど、求人求職活動が活発化してきている。	
	職業安定所（職員）	・漁業不振の影響が続いており、イカなどを原料とする食料品製造業の業況に不安がある。	
	職業安定所（職員）	・1月の有効求人倍率は3か月連続で前年を上回り、業種によっては人手不足の状況が深刻化している。	
	学校〔大学〕（就職担当）	・観光業やドラッグストア、家電量販店の採用担当者からは、好景気を反映してか強めの新卒者採用意欲がうかがえるが、それ以外の業界の採用意欲は横ばいとなっている。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人増のピークは過ぎたとみられる。飲食店やサービス業の人手不足は相変わらずだが、人件費や募集、採用に掛かる経費が増加していることで積極的に募集できない状況になっている。	
	x	-	